

政策評価調書（個別票）

【政策ごとの予算額】

政策名	オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進				番号	25	(千円)			
	予算科目				他に記載のある 個別票の番号	予算額				
	会計	組織／勘定	項	事項		7年度 当初予算額		8年度 概算要求額		
政策評価の対象と なっているもの	一般	文部科学本省	研究振興費	オープンサイエンス等の推進に必要な経費		53,652,509		84,966,127		
	一般	文部科学本省	研究開発推進費	先端基盤技術の強化に必要な経費	27	< 11,091,966 >	の内数	< 15,779,549 >	の内数	
	小 計					一般会計	53,652,509		84,966,127	
						< 11,091,966 >	の内数	< 15,779,549 >	の内数	
					特別会計					
						< >	の内数	< >	の内数	
政策評価の対象と なっていないが、 ある政策に属する と整理できるもの	一般	文部科学本省	国立研究開発法人科学技術振興機構運営費	国立研究開発法人科学技術振興機構運営費交付金に必要な経費	20, 21, 22, 23, 27, 28, 29	< 100,771,968 >	の内数	< 109,236,026 >	の内数	
	一般	文部科学本省	国立研究開発法人科学技術振興機構施設整備費	国立研究開発法人科学技術振興機構施設整備に必要な経費	20, 21, 22, 23, 27, 28, 29	< 414,105 >	の内数	< 2,078,568 >	の内数	
	一般	文部科学本省	国立研究開発法人理化学研究所運営費	国立研究開発法人理化学研究所運営費交付金に必要な経費	20, 24, 27, 28, 29	< 57,736,328 >	の内数	< 64,443,028 >	の内数	
	一般	文部科学本省	国立研究開発法人理化学研究所施設整備費	国立研究開発法人理化学研究所施設整備に必要な経費（新規）	20, 27, 28, 29	< >	の内数	< 4,841,000 >	の内数	
	小 計					一般会計				
						< 158,922,401 >	の内数	< 180,598,622 >	の内数	
					特別会計					
						< >	の内数	< >	の内数	
合 計					一般会計	53,652,509		84,966,127		
						< 170,014,367 >	の内数	< 196,378,171 >	の内数	
					特別会計					
						< >	の内数	< >	の内数	

令和6年度実施施策に係る政策評価書

(文R6-8-3)

施策名	8-3. オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進	部局名	研究振興局 参事官 (情報担当)	作成責任者	国分 政秀
施策の概要	研究の飛躍的な発展と世界に先駆けたイノベーションの創出、研究の効率化による生産性の向上を実現するため、情報科学技術の強化や、研究のリモート化・スマート化を含めた大型研究施設などの整備・共用化の推進、次世代情報インフラの整備・運用を通じて、オープンサイエンスとデータ駆動型研究等を促進し、我が国の強みを活かす形で、世界の潮流である研究のデジタルトランスフォーメーション (研究DX) を推進する。			政策評価 実施時期	令和6年度
達成目標及び測定指標	(別添1) 「科学技術分野の政策体系等」のとおり				
施策の実施状況	(別添2) 「科学技術分野の施策の実施状況 (8-3)」のとおり				
施策目標に係るレビューシート	https://www.mext.go.jp/a_menu/kouritsu/detail/block30_00108.htm				
評価結果	施策の評価 【有効性の観点から】	「第6期科学技術・イノベーション基本計画」(令和3年3月閣議決定)や「デジタル社会の実現に向けた重点計画」(令和6年6月閣議決定)において、研究DXを通じて、より付加価値の高い研究成果を創出し、我が国が存在感を発揮することが求められている。関係省庁と連携するとともに、情報委員会や研究開発基盤部会、量子ビーム利用推進小委員会の議論を踏まえ、オープン・アンド・クローズ戦略に基づく研究データの管理・利活用や世界最高水準のネットワーク・計算資源の整備、設備・機器の共用・スマート化、データ駆動型研究等の推進に資する取組を実施している。別添1の通り、多くの目標値においてその実績値は概ね順調に推移しており、革新的なAI基盤技術の開発や研究データ基盤の構築、大型研究施設の運用を通じた論文等成果の創出など着実に成果が創出されていることから、当該施策の有効性が認められる。			
	今後の施策への反映の方向性	各達成目標に向けて、それぞれ下記の通り施策を推進する。 ○AIP: 人工知能/ビッグデータ/IoT/サイバーセキュリティ統合プロジェクトや生成AIモデルの透明・信頼性の確保に向けた研究開発拠点形成によりAI等の革新的な基盤技術の開発を進め、Society5.0実現化研究拠点支援事業を通じて社会実装を図り、情報科学技術を強化する。また、統計エキスパート人材育成プロジェクトを通じた専門人材育成のための環境整備及びAI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業による研究データの管理・活用の環境整備を行い、データ駆動型の推進に必要な基盤(NII-RDC)を構築する。 ○SPRING-8/SACLA、J-PARC及びNanoTerasuについて必要な運転時間の確保及び利用環境の充実に努めるとともに、現行の100倍の輝度をもつ世界最高峰の放射光施設を目指し、大量データ創出によるデータドリブンイノベーションの創出が可能となるSPRING-8-IIの整備に着手するほか、NanoTerasuの共用ビームラインの増設やDXを含む利用環境の充実に、施設を学术界・産業界の広範な分野の研究者等の利用に供する。また、全国の研究設備・機器について、戦略的に導入・更新・共用する仕組みの強化(コアファシリティ化)や先端研究設備プラットフォームの構築等を、先導事例の展開や機関間連携の促進、利用者拡大に向けた基盤技術の高度化等を通じて推進することで、研究者に必要な研究設備・機器へのアクセス確保やより研究に打ち込める環境を実現し、研究成果の一層の創出・質的向上に貢献する。 ○スーパーコンピュータ「富岳」を引き続き、効率的かつ着実に運用しつつ、国内の大学等のスパコンを高速ネットワークでつなぎ、利用者が一つのアカウントにより様々なスパコンやストレージを利用できるようにするなど、多様なユーザーニーズに応える環境を構築することで、学术界・産業界における幅広い利用を促進し、成果の創出を図る。また、遅くとも2030年ごろの運転開始を目指し、新たなフラッグシップシステムの開発・整備に着手。今後の開発・整備に当たっては、現状のシステムからシームレスに移行するとともに、最新の技術動向に対応する拡張可能な進化し続けるシステムとする。			
学識経験を有する者の意見	KPI「①情報科学技術分野における研究開発の論文数、学会発表数(単年度)」は目標値1050本に対して、実績635件(令和5年度)となっており、十分な推進ができていないように見受けられる。どのように発展させるのか、審議会等で検討が必要。 KPI「データポリシー策定率(目標値:100%(2025年度))」についても50%以下となっているところ、今後値が増えるとは予想はされるが、十分な情報提供が大学等になされているか、検討の上で政策を推進すべき。				